



1 施設全景：高架水槽はシャトー・ドーと呼ばれ、村の発展の象徴となっている

2 完成した家畜用の水飲み場

3 パイプライン掘削中の現地ワーカー達

4 井戸掘削の「呼び揚水」に集まる子供たちと建設中のシャトー・ドー

5 井戸掘削状況

6 完成した機械室

15万人に安全な水を供給、衛生状況の改善や貧困削減にも寄与

【セネガル】タンバクンダ州給水施設整備計画

セネガル国の東部内陸部に位置するタンバクンダ州は、全国でも貧困人口の多い地域に属しており、安全な水へのアクセス率は30%程度と、全国平均72%（2007年）を大きく下回っている。同国政府は、安全な水の供給を主要な開発課題に位置付け、農村部の給水率を2015年までに82%に引き上げる方針を掲げており、「水と衛生のミレニアムプログラム」を策定して給水行政を進めている。この中で、深井戸給水施設の改修・拡張がわが国に要請された。

本事業は09年に2回の協力準備調査を実施し、要請のあった55サイトのうち、優先順位の高い19サイトを実施対象に選んだうえで、概略設計を行った。無償資金協力による給水施設の改修・拡張として、水源となる井戸、貯水槽、配管、公共水栓・家畜水飲み場・車両給水所、付属する機械室などを改修または新設するほか、老朽化した既存の水

中モータポンプや発電機を更新する。井戸については新規掘削14カ所、改修10カ所に上る。

これによって、19サイトに住む住民約15万人を対象に、一人当たり1日35ℓの安全な水が適正な給水施設から供給されるようになるとともに、大型家畜5.5万頭、小型家畜8.4万頭にも水を供給することが可能になる。また、新規の井戸掘削によって給水施設の寿命が延びるほか、「住民主体の水利用者管理組合」活動を導入することで、持続的な運営・維持管理を実施する体制が整えられる。最終的には、村落住民の衛生状況の改善、水汲み労働の負担軽減、さらには貧困削減などが期待される。

コンサルティング **日本テクノ(株)**

施設建設 **(株)日さく**